

令和7年度東京都在宅療養研修事業「在宅療養推進研修」の報告について

1 概要

地域において在宅療養の中心的な役割を担う人材を育成し、地域の在宅療養推進の取組を充実させることを目的として、東京都（委託先：公益社団法人東京都医師会）が開催するものである。

2 開催日時

令和8年2月24日（火） 午後6時～午後8時30分 （オンライン開催）

3 参加自治体等

(1) 参加自治体

21区市（10区・11市）

(2) 文京区参加者

9名（診療所医師2名、ケアマネジャー1名、地域包括支援センター1名、区職員5名）

4 研修プログラム

事項	テーマ・内容
① 講義	「フレイル対策は地域づくり」～早期予防からハイリスク対応まで～ （東京大学高齢社会総合研究機構 機構長・教授、 未来ビジョン研究センター教授 飯島 勝矢）
② グループワーク	地域におけるフレイル対策の現状・課題と解決策について

5 グループワークにおける文京区の主な意見

現状認識	・区民の平均余命は長い、不健康期間も長い傾向にある。 ・フレイルサポーター養成講座やフレイルチェックの取組、介護予防把握事業などを中心に積極的にフレイル予防の取組を進めており、「高齢者等実態調査」の調査結果からも、フレイル予防に対する認知度・理解度は高まっていることが伺える。
課題等	・様々な事業を行っているが、男性より女性の参加率が圧倒的に高いため、男性の参加率を上げていくことが課題である。 ・様々なフレイル予防の取組がどのような行動変容につながっているのか見えづらいため、この部分の効果測定が課題である。 ・高齢者の子の世代（50代くらい）から意識をしてもらう取組が大事ではないか。 ・専門職の間でフレイル予防への共通認識や基準の構築が不完全である。
その他	・「長寿ふれあい食堂」では、食事を通じた住民の交流を行っており、その中に専門職も入って運動や健康相談を受けるなど孤独・孤立を防ぐ取組を実施している例もあるが、今後もこのような取組を進めていくことが重要と考えている。